

至八事交差点

天白歴史探訪マップ 元八事コース

地下鉄塩釜口から昭和高校前交差点まで

元八事の歴史

平安時代から中世までこの辺りは、「大聖寺」の荘園でした。江戸時代中期に暴風で建物が崩壊し、下八事に移転し、明治の初め、廃寺となりました。

江戸時代より以前から、この辺りの平地には「上八事」「下八事」の2つの集落がありました。

江戸時代になると、丘陵地に尾張藩所有の御林地が広がり、含めて一帯が八事村と呼ばれました。平地では田畑を耕し、山の恵みも受けて暮らしました。平地は、

天白川の氾濫により砂地も広がり米作りには苦勞しましたが、昭和の初期、その砂地を活用し、ニンジン栽培が盛んになりました。

近代になると、八事村は交通の要所であった為、物資の運搬を担う荷馬よる運送業が盛んになりました。

戦後になり現在の八事交差点一帯が開けて中心地が移ると、こちらの方は「元八事」と呼ばれるようになりました。



道から見た八事集落（裏面参照）

八事村のお祭り

江戸時代、旧暦九月十日は、八事村の2つの集落のお祭りでした。

朝四つ時(午前10時)に①一之御前社に下八事と上八事の農民が集まり、始まりました。①一之御前社⇒⑧観音寺(旧)⇒⑥八幡社(現八事神社)⇒②仏地院(旧)⇒①高峯神社と移動し、それぞれの場所で神事を行い、上八事の人々は「棒の手」を舞い、下八事の人々は「獅子舞」を舞いました。最後に、仏地院(旧跡地)に戻り、見物に訪れた近くの村の人を交えて、夜四つ時(午後10時)まで語り、踊り、舞いが続きました。

〈名古屋叢書 細野要齋「感興漫筆」〉より

散策コースご案内

基本コース

- 地下鉄塩釜口駅 約5分
- ①高峯神社旧跡地 約7分
- ②仏地院旧跡地 すぐ
- ③馬頭観音 約2分
- ④観音堂旧跡地(那智さん) 約5分
- ⑤観音寺 約7分
- ⑥八事神社(八幡社旧跡地) 約5分
- ⑦仏地院 約2分
- ⑧観音寺旧跡地 約7分
- ⑨下八事墓地と大聖廃寺住職の墓 約7分
- ⑩下八事の大聖廃寺旧跡地 すぐ
- ⑪一之御前社旧跡地 約5分
- ⑫不動山大学院 約5分
- ⑬八事赤土の里「石柱」 約3分
- 昭和高校前交差点

健脚コース (⑧と⑨の間)

- ⑧観音寺旧跡地 約8分
- ⑭表山の大聖廃寺旧跡地 約6分
- ⑮日光院 約12分
- ⑨下八事墓地と大聖廃寺住職の墓

※所要時間には個人差があります。



日光院 15



下八事墓地と大聖廃寺住職の墓 9



「八事赤土の里」石柱 13



ふれあい観音内那智さん 8



仏(佛)地院 7



八事神社 八幡社旧跡地 6



観音堂旧跡地(那智さん) 4



観音寺 5



高峯神社旧跡地 1



仏(佛)地院旧跡地 2



馬頭観音 3



目印 八事東コミュニティセンターの看板



「八事赤土の里」石柱

天白歴史探訪マップ 元八事コース

〈企画・作成〉天白ガイドボランティア歴遊会
〈初版〉令和7年3月 〈発行〉天白区役所

道から見た元八事集落

- ① 山畔道は、塩釜口から山裾に沿って、昭和高校の北側、さらに西(瑞穂丘陵)へ続いていた。
 - ② 村中の道は、高峯神社前で山畔道から分かれ、上八事集落、下八事集落を繋ぎ、あつた道と交わっていた。
 - ③ あつた道(平針街道)は、原追分け(平針西口)から島田を通って天白川を渡り、下八事集落を経て、中根村から熱田まで続いていた。
 - ④ 駿河街道は江戸時代に開かれ、村は街道より少し外れていたが、数カ所の道で繋がれていた。
 - ⑤ 地蔵道は、八事石坂で駿河街道から分岐し、きよの坂、天白川を渡り、島田へと繋がっていた。
- ※ その他、神社・寺・墓地・池・耕作地と屋敷(集落)とを繋ぐ道が南北に数本あった。
①～⑤は表面右上の図を参照

① 高峯神社旧跡地

医院を北西に曲がり、60m坂を上り左側にある駐車場の奥の藪の中に石柱が建つ。村社として古くから村民に崇敬されていた。創建は定かではない。江戸時代の棟札が残るが、それよりかなり前と思われる。明治43年に八事神社に合祀。祭神は高峯大明神。

② 仏(佛)地院旧跡地

現在のみゆきやま保育園の一角が、室町時代の南北朝統一直後に創建された、真言宗の大寺院であった。数度の火災などで荒廃したが、寛永元年(1624年)二世物道和尚が復興、曹洞宗に改修し陶金山佛地院と命名した。

③ 馬頭観音

上八事第二公園に面した篤志家の宅地の一角に祀られている。大正時代、平針・植田と熱田方面を馬で結ぶ輸送路があった。荷馬業者の組合員13人が、輸送路沿いであるこの地に道中の無事を祈り建立。輸送が馬からトラックに変わり、主要道路も変遷した。現在、区画整理によりこの地に移された。この辺りは今でも陸運業の会社がある。

④ 観音堂旧跡地(那智さん)

現在、畑になっている。明治の末から大正の初め頃、「旗本(旧地名)」地区で不幸が続く、旧仏地院の竹林にあった那智の如意輪観音の石仏を祀ることとなり、そこに小さな御堂を建立した。やがて参拝しやすいようにと御堂を畑地に移動、地区で間口2間ほどのお堂に立替えた。4月17日を大祭とし、食事を持ち寄り、余興を楽しんだ。石仏は「なちさん」と親しまれ、軽く持ち上げれば「吉」であるという占いが評判を呼び、人が集まった。また、参拝する人が多いほど、願いを叶えてくれる力が大きくなるとも言われた。現在は存続できなくなり、御堂は廃絶。石仏は平成10年頃から仏(佛)地院のふれあい観音堂の片隅に祀られている。大祭は新型コロナウイルス流行前まで続いていた。

⑤ 御幸山観音寺 曹洞宗

開創：延宝2年(1674年)
開山：熱田全隆寺3世朝国秀暲大和尚
本尊：十一面観世音菩薩
表山(八事東小学校西側)「観音堂」として建立。後に、全隆寺17世中興昌雄萬丈大和尚によって再建される。「松風山観音寺」となる。明治11年に現在地に移転する。尾張城東西国三十三観音第十四番札所。

⑥ 八事神社 八幡社旧跡地

創建：室町時代以前。当時は八幡社。神社合祀令により、明治43年(1910年)村内3カ所の神社を合祀。「八事神社」となる。
祭神：大伴武日(建日)命(一之御前社)
高峯大明神(高峯神社)
品陀和気命(応神天皇、八幡社)
境内：「力石」があり、説明札がある。八幡社跡を示す石柱が社務所の西にある。「音聞山勝地」の碑がある。大正天皇即位式選歌の歌碑がある。本殿、拝殿、境内は改築された。

⑦ 音聞山仏(佛)地院 曹洞宗

開創：明徳4年(1393年)
本尊：釈迦牟尼仏
本堂：入母屋破風造り(檜造り)
境内：約7,000坪、池約1,000坪。山門、開山堂、ふれあい観音堂、保育園、土俵など
②仏(佛)地院旧跡地より大正7年(1918年)に現在地に移転し、音聞山仏(佛)地院と称するようになった。現在の保育園と八事東小学校の場所が池であり、すべてが境内地であった。尾張三十三観音第三十二番札所。

⑧ 観音寺旧跡地

観音寺旧跡地の墓地に供養塔が面影を残す。墓地の南西地区一体が寺域であった。当時は、現在のバス道路は整備されておらず、松並木が並び観音坂とも呼ばれていた。

⑨ 下八事墓地と大聖廃寺住職の墓

墓地に入って左側に6体の地藏と観音の石仏、4本の石柱があり、阿闍梨とか大和尚の文字が判読される。これは大聖廃寺の墓碑。現在、大聖寺があった痕跡を残す唯一の遺物である。

⑩ 下八事の大聖廃寺旧跡地

現在は住宅地である。江戸時代の絵図(寛政期1789年～1800年)と天保12年(1841年)と弘化4年(1847年)に「泰幸山大聖寺」が下八事集落の一之御前社の近くに描かれている。

⑪ 一之御前社旧跡地

八事東コミュニティセンターの南側に石柱が建っている。下八事集落の産土神だった。天文年間の棟札が残っている。神社合祀令により、明治43年に八事神社へ合祀された。祭神は大伴武日(建日)命。

⑫ 不動山大学院 真言宗醍醐派

創建：寛永18年(1641年)この地に草堂を結び、本尊を奉安した。旧大聖寺の学問所であった。
本尊：青面金剛
境内：本堂、山門、役行者堂
現在もここを中心に修験道の修行や庚申講が続いている。東海三十六不動尊第十四番札所。

⑬ 「八事赤土の里」の石柱

個人の敷地内の西側、バス道路に面して建つ。このあたりの旧地名が「赤土」(礫交じりの赤土が八事層と呼ばれている)。現在の昭和高校の敷地を横切るようにあつた道が通っていた。この地名以外にも天白川に向い、「下流」「砂入」などの旧地名があった。

⑭ 表山の大聖廃寺旧跡地

表台にある大手企業の社員寮あたりが境内の中心だったと推測される。平安時代は「大山の正福寺」(小牧市大山)室町時代は「野田の密蔵院」(春日井市)江戸時代は名古屋東照宮の神宮寺である「尊壽院」の末寺であった。七堂伽藍を構え、坊も数個あった。創建・開祖は不詳。平安時代から中世までは、八事・植田・島田を領域とする「八事荘」という荘園の在地領主だったと考えられる。天正年間に東光祐舜が中興して「東宮院」と号した。室町時代の古文書に「八事追大聖寺先達所」と記録がある。山岳信仰の霊場に先達する修験僧や「檀那(信仰する信者)」などを統括していたと思われる。江戸時代中頃、下八事集落に降りてきて「泰幸山大聖寺」としたが、明治の初頭に廃寺となった。旧字名「香打場」「市場」「東大門」「庚申前」など、旧寺地を示す地名があった。
表山のこの地は後に、松坂屋の療養所となった。太平洋戦争時には、イタリア人の強制収容所となり15人が抑留されていた。

⑮ 東天山日光院 天台寺門宗

創建：不詳。
本尊：毘沙門天
境内：吒呬天を祀る祠。八光明神を祀る祠。不動明王。八十八ヶ所の石仏。伊藤萬蔵寄付の石の香炉がある。大正2年(1913年)中区東新町から当地に移転。平成22年(2010年)木造の本堂と庫裏が改築された。